

ワシントン DC 開発フォーラム・ブラウンバックランチ  
「開発のための民間資金の活用現状と課題」

キックオフ：畑島宏之（国際金融公社 中小企業局）

### 1. 途上国への資金フロー

#### (1) 開発資金需要

- ・ 国連ミレニアム目標を満たすのに年400-600億ドルの追加援助必要

#### (2) 開発資金の状況（図表 p1, p2）

- ・ ODAが減少する一方、民間資金はODAの6～7倍
- ・ 民間資金フローの形態：FDI、ポートフォリオ投資、民間融資

### 2. 世銀「民間部門開発戦略」

#### 1 市場カバレッジの拡大

- ・ 投資環境の向上 = 投資環境サーヴェイ、CASへのインプット
- ・ 企業への直接支援 = 但し補助金のun-bundle(transparency, performance-based) = 中小企業支援等

#### 2 基本的なサービスへのアクセスの向上：インフラ・社会部門への民間参入の促進

#### 3 output-based aid パイロットプログラム（図表 p3）

- ・ 背景：援助ターゲットイングと効率化、補助金のtransparency化の流れ
- ・ 理論と現実（援助疲れと最貧国での破綻した公共部門をどうするのか）

### 3. 民間資金と開発の課題

民間の開発資金はダイナミックであり、開発に関与する全ての関係者は、今まで以上にダイナミックに対応する必要がある。世銀の民間部門戦略は民間のダイナミズムを捕まえているのか？

民間開発資金のダイナミズム

- (1) マクロの視点：外部環境変化の速さ、技術革新の進展、多様なアクター
- (2) ミクロの視点：現実的な視点、一般公理で解けない調整問題（ノウハウ、経験知）

ダイナミズムに対する対応の鍵：

- (1) リスクに対する感受性：リスクの明示化、細分化、最適配分 = 公共政策・補助金政策・民間の自己責任・burden-sharing
- (2) 多様なアクターの認識と調整メカニズム（政策決定の「実態」 = アクターの力関係、置かれている外部環境、タイミング）

公的開発金融機関の役割と能力が問われる

- ・ リスクの増大とそれを取るアクターの減少（先進国の不況、新しいBIS規制、9/11後の保険プレミアムの上昇）民間リスクテイクの補完？制度作り
- ・ 企業行動の開発活動への「誘動」（リーダーシップ） = 調整メカニズムの構築

### 4. 日本にとっての challenges & opportunities

- ・ これまでの官民協調のあり方を省みる
- ・ 日本の構造調整をにらんだ新たな可能性を模索する必要（地方自治体の公共サービスの「輸出」産業化、各種研究所の独立法人化 = 蓄積されたノウハウによるコンサルタント市場の活性化）
- ・ 競争システム、市場シグナルの有効活用と「誘動」メカニズムの模索
- ・ 現実的な対応と理論武装（現場の環境の理解と有効に機能する解決策の提示：説得力のある理論武装） = スキームの柔軟対応、経験知、その際に制限・前提条件の違いに十分留意必要。